



# 都市公園における樹木の 安全管理に関する事例集

令和8年3月

国土交通省関東地方整備局建政部

公園利活用推進センター





## はじめに

# みどり豊かな都市公園における「安心・安全」の確保に向けて

都市公園は、多様なレクリエーションや自然とのふれあいの場となるほか、うるおいのある生活環境の形成、都市や地域の防災性の向上、野生生物の生息・生育環境の確保、豊かな地域づくりに資する交流の場の提供等の多様な機能や効用を有する都市の「みどり」の根幹的な施設です。そのため都市公園は、都市樹木が健全に生育できる環境の整備・保全を行う施設として、重要な役割を担っております。

国土交通省が令和6年12月に公表した「都市における緑地の保全及び緑化の推進に関する基本的な方針」（緑の基本方針）では、「我が国の社会資本は、特に高度経済成長期に整備が進んだため、都市公園内の樹木や街路樹等の公的空間における多くの樹木は、高齢化・大径木化が進行し、倒伏や落枝による重大な事故等の安全確保上のリスクが高まっており、また管理が不十分な緑地では利活用が困難となり、景観上支障が生じて Well-being が実感できなくなっているなど各種課題が顕在化しております。このため、除草や病害虫防除等の維持管理を適切に行うとともに、安全確保や Well-being の向上のための必要に応じた剪定・伐採・更新、緑地の機能の維持・増進に必要な大規模な樹林更新について、生物多様性の確保や景観・歴史文化の形成等に資する樹木にも考慮し、計画的に行うことで、都市の緑地の質を維持・向上させることが必要である。」と記載されております。

このため、樹木の持つ機能や効用の増進と樹木の安全性の確保を、継続的に両立させていく必要があり、都市公園の安全対策として樹木の点検・診断を適切かつ確実に行うことにより更なる安全性の向上を図ることが求められています。

令和7年4月には、同省都市局公園緑地・景観課において全国の都市公園を対象として実施した倒木等の調査結果を公表しております。また、同課において「都市公園の樹木の点検・診断に関する指針（案）」が令和8年3月に改訂され、点検の実施の促進に資する内容が追加されました。この指針（案）における点検・診断の各種作業の相互関係を示したフローに基づき、公園管理者において必要な安全措置が講じられ、良好な樹木の生育が進み、都市公園の安全性がより一層高まることが期待されます。

一方で、現場では人員や予算の制約があり、いかにして効率的かつ適切な樹木の管理を実施していくかが課題となっております。限られたリソースの中で事故を未然に防ぐためには、従来の基本的な管理手法に加え、効率的・効果的な点検や、リスクに応じたメリハリのある対策・計画、新たな知見の導入が有効です。

こうした背景を踏まえ、本事例集は、関東地方整備局管内の地方公共団体等が管理する都市公園における樹木の安全管理に係る工夫や取組事例をご紹介します。みどり豊かな都市公園の「安心・安全」の確保に向けて、日々の維持管理業務に携わる皆様のご参考になれば幸いです。

都市公園の樹木の点検・診断に関する指針（案） 国土交通省都市局公園緑地・景観課

[https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi\\_parkgreen\\_tk\\_000109.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_tk_000109.html)

## 【問い合わせ先】

国土交通省関東地方整備局建政部  
公園利活用推進センター



## 目次

### 点検編 「日常点検」や「定期点検」における工夫事例

●01 樹木点検アプリの開発・活用	：公益財団法人東京都公園協会	— 1
●02 GISを活用した樹木情報の管理	：国営昭和記念公園	— 2
●03 樹木診断ツールの活用	：栃木県佐野市	— 3
●04 ドローンを活用した枯損木調査	：国営武蔵丘陵森林公園	— 4
●05 樹木点検講習会の開催	：公益財団法人東京都公園協会	— 5
●06 地域の大学との協働	：千葉県	— 6
○07-①「クラウド型業務アプリ構築プラットフォーム」 を活用した管理	：群馬県館林市	— 7
○07-① LINE通報システムの導入	：千葉県柏市、埼玉県入間市	— 7
○07-① GISによる樹木管理	：東京都杉並区	— 7
○07-② キャンプ運営会社・シルバー人材で見回り	：千葉県柏市	— 8
○07-③ 樹木医による座学・野外での講習	：千葉県船橋市、神奈川県横浜市	— 8
○07-④「公園施設点検マニュアル」の作成	：神奈川県横浜市	— 9
○07-④ 初心者でもわかるマニュアルの作成	：東京都八丈町	— 9
○07-⑤ 特記仕様書で具体的な評価基準を指定	：埼玉県伊奈町	— 9
○07-⑤他作業に合わせて危険木チェック	：茨城県守谷市	— 9
○07-⑥ 寄付制度の活用	：東京都狛江市	— 10

#### < 凡例 >

●：詳細をご紹介している事例 ○：その他の事例において概要をご紹介している事例

※各事例において関連資料等として掲載しているURLは、各自治体における取組内容の理解を補足するための参考情報であり、国として特定の製品・事業者又は技術を推奨するものではありません



# 目次

## 対策編 危険木への「未然防止」と「対処」に関する現場での工夫事例

●01 地域協働で外来種対策	：茨城県つくば市	11
●02 企業と協働する維持管理	：群馬県前橋市	12
●03 造園協会と災害時協定	：神奈川県厚木市	13
●04 地域との協働作業	：神奈川県相模原市	14
○05-① エアレーション等による土壌改良	：東京都練馬区	15
○05-① 専門ロープでの枝・幹の誘引、樹木の倒木予防、枝折れ時の落下予防	：東京都練馬区	15
○05-② 市民協働による実生木・危険木の間伐	：茨城県守谷市	15
○05-② 公園愛護会へ講習会・機械貸出の実施	：群馬県前橋市	15

## 管理計画編 樹木の計画的な「安全対策」と「管理体制」の工夫事例

●01 維持管理ガイドラインの作成	：神奈川県厚木市	16
●02 パークマネジメント計画の策定	：東京都多摩市	17
●03 住宅等緩衝区域の設定	：神奈川県相模原市	18
●04 ボランティアが参画した「公園管理計画」の策定	：茨城県古河市	19
●05 「保全管理計画」を基にボランティアと連携での公園管理	：神奈川県横浜市	20
○06-① 標準公園モデルの作成	：群馬県館林市	21
○06-① 計画的な維持管理のためのマニュアル策定	：千葉県船橋市	21
○06-① 公園面積に応じた植栽樹種の選定	：東京都杉並区	21
○06-② 高木の植栽配置・樹種選定の検討	：栃木県宇都宮市	21
○06-③ 危険木の優先順位の設定	：栃木県宇都宮市	22

## 自治体ホームページ マニュアル・ガイドラインを公表している自治体

・01 公園樹木維持管理指針	：東京都足立区	23
・02 小金井市立公園等の樹木管理ガイドライン	：東京都小金井市	23
・03 川口市樹木管理指針【公共施設編】	：埼玉県川口市	23
・04 東松山市都市公園内樹林地等管理指針	：埼玉県東松山市	23
・05 市公園樹木等維持管理計画	：神奈川県相模原市	24
・06 公園内高木の管理指針	：千葉県柏市	24

< 凡例 >  
 ●：詳細をご紹介している事例 ○：その他の事例において概要をご紹介している事例

# 点検編

「日常点検」や「定期点検」における工夫事例



## 02 GISを活用した樹木情報の管理

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### QGISで樹木管理！調査～記録をスマートフォンで完結

所管： 国営昭和記念公園

担当係： 国営昭和記念公園事務所  
昭和記念公園管理センター

#### 1. 取組前の課題

##### ●膨大な作業量

広大な公園（約180ha）において、約25,000本ある樹木の現状を台帳にリアルタイムで反映できず、関係者間での情報共有に時間がかかり、危険木への予防措置が迅速にできていない状況であった。

#### 2. 取組内容

##### ●QGISによる樹木管理・スマートフォンでの調査

無料のオープンシステムである「QGIS」で樹木台帳を管理し、スマートフォンで記録を確認できるようにした。また、現地調査時にスマートフォンで情報を更新し、関係者間で、各樹木の状況を速やかに把握できるようにした。活用方法は以下のとおりである。

- ①現地調査時に樹木の危険度情報をスマホで更新。
- ②PC上で危険度が高い樹木のみ一括表示し、対策の優先度が高い樹木を速やかに把握可能に。
- ③現地で対策を行う際、スマホ上で現在地と対象樹木の位置関係がわかるため、特定が容易に。  
※紙面のみの場合、樹木の密集箇所では対象樹木の特定が困難

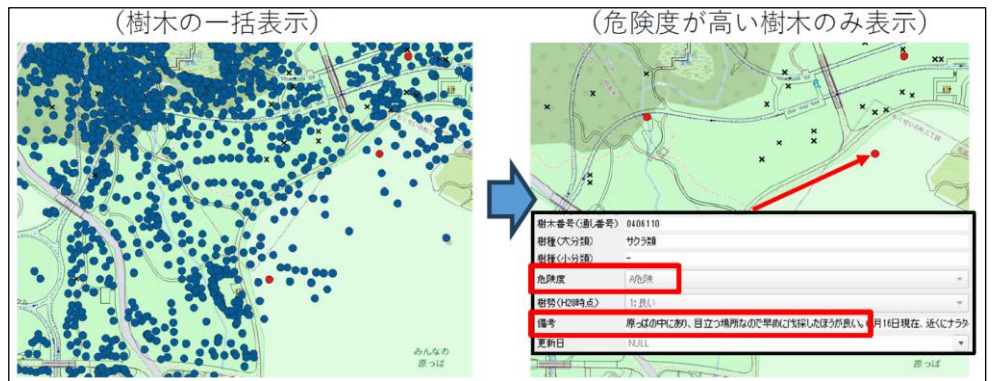
#### 3. 効果

##### ●情報共有の円滑化

関係者間の情報共有が円滑となり、危険木に対する措置の応答速度が向上した。

##### ●効率的な対策検討へ寄与

危険木の位置を全体的にビジュアルで把握でき、近接していればまとめて伐採するなど、効率的な危険木対策の検討に大きく寄与した。



▲ QGISによる危険度が高い樹木の抽出表示

#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●専門的知識の要求

QGISは無料で利用することができて幅広い機能が活用可能であるが、一定程度専門的な知識を要する。マニュアルの充実や講習会の強化に取り組んでいく。

##### ●他の点検への拡張

樹木管理のためのシステムであるが、効率的な管理のためには植物に限らず、地物情報（主に健全度調査結果）を網羅することにより、樹木対策だけでなく修繕等も含めた維持管理の優先順位を効率よく把握・対応できるようになる。

**ポイント** GISによる樹木データの電子化により、関係者間の情報共有の円滑化に貢献すると共に、危険木の可視化による対策検討や効率的な管理に活用。

# 03 樹木診断ツールの活用

コスト削減・財源確保    システム構築    新技術等活用    技術向上    外部連携

## 樹木内の腐朽を見える化！打撃音での樹木簡易診断

自治体： 栃木県佐野市  
 担当係： 都市建設部 都市整備課

### 1. 取組前の課題

#### ●クビアカツヤカミキリによる被害

クビアカツヤカミキリの食害による樹木内部の空洞化被害がまん延しており、薬剤による防除や樹木のネット巻きによる対策を講じている。しかし、依然としてクビアカツヤカミキリの被害は発生しており、あまり効果は見受けられなかった。そのため、倒木による被害を未然に防ぐため、職員自らが樹木の腐朽状態を簡易的に確認し、専門業者による樹木診断につなげる必要があった。

### 2. 取組内容

#### ●打撃音樹内腐朽簡易診断装置の活用

コストをかけずにクビアカツヤカミキリの被害状況を把握するため、打撃音樹内腐朽簡易診断装置を活用している。樹木を叩いたときに生じる打撃音を分析し、腐朽具合を調査することが可能であり、目視等で判別困難な空洞化の把握を行っている。診断はハンマーで樹木を叩く人と、振動を計測する人の2名で行う。令和7年7月から、公園内のサクラを中心に100本程度の樹木の診断を実施し、危険木と思われる樹木を発見した際は、専門業者に精密な樹木診断を依頼して対応した。



▲ 装置を使った点検の状況

### 3. 効果

#### ●被害拡大の防止

外見ではわからない内部が空洞化した危険木を発見し、早期に対処した事例がある。事故を未然に防ぎ、クビアカツヤカミキリの被害拡大を防止することができた。

#### ●市民への伐採根拠の説明が明確に

長い年月を経て生長した樹木を伐採することは、市民にとっても快いことではない。本装置による診断は、樹木が腐朽していることが明確なデータとして現れる。診断結果を用いることで、伐採は安全性が確保できていない樹木を対象とすると、市民が納得する説明が可能となった。

腐朽診断カルテ		腐朽診断カルテ	
現場名	桜樹一塚	現場名	桜樹一塚
樹種名	サクラ	樹種名	サクラ
樹木番号	S8128	樹木番号	S8122
幹周	199cm	幹周	186cm
診断日	R7.11.5	診断日	R7.11.5
診断者		診断者	
<input type="checkbox"/> 樹皮乾死穴・腐朽 <input type="checkbox"/> 空洞 <input type="checkbox"/> 幹腐病 <input type="checkbox"/> キノコ <input type="checkbox"/> 打撃音異常	<input type="checkbox"/> 分枝腐の異常 <input type="checkbox"/> 接合部腐過大 <input type="checkbox"/> 根腐病の発生 <input type="checkbox"/> 枯枝	<input type="checkbox"/> 樹皮乾死穴・腐朽 <input type="checkbox"/> 空洞 <input type="checkbox"/> 幹腐病 <input type="checkbox"/> キノコ <input type="checkbox"/> 打撃音異常	<input type="checkbox"/> 分枝腐の異常 <input type="checkbox"/> 接合部腐過大 <input type="checkbox"/> 根腐病の発生 <input type="checkbox"/> 枯枝
<input type="checkbox"/> 樹皮乾死穴・腐朽 <input type="checkbox"/> 空洞 <input type="checkbox"/> 幹腐病 <input type="checkbox"/> キノコ <input type="checkbox"/> 打撃音異常	<input type="checkbox"/> 分枝腐の異常 <input type="checkbox"/> 樹皮剥離 <input type="checkbox"/> 樹皮腐 <input type="checkbox"/> 樹皮剥離 <input type="checkbox"/> 樹皮剥離	<input type="checkbox"/> 樹皮乾死穴・腐朽 <input type="checkbox"/> 空洞 <input type="checkbox"/> 幹腐病 <input type="checkbox"/> キノコ <input type="checkbox"/> 打撃音異常	<input type="checkbox"/> 分枝腐の異常 <input type="checkbox"/> 接合部腐過大 <input type="checkbox"/> 根腐病の発生 <input type="checkbox"/> 枯枝
写真 写真1 写真2		写真 写真1 写真2	
専門判断の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 緊急対応の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 特定等処置の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		専門判断の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 緊急対応の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 特定等処置の必要性 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
管理者記入 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		管理者記入 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	

▲ 樹木内に問題がない場合

▲ 樹木内に問題がある場合

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ●精密診断の効率化

本装置による診断で、精密診断の対象木を絞り込むことができ、診断の迅速化、コストの縮減が見込まれる。

#### ●習熟した技術の必要性

本装置は、適切な方法で樹木をたたかないと診断結果が変わってしまうため、一定の技術が求められる。外観診断、貫通抵抗測定など、他の診断方法とも組み合わせて使うと効果的である。

**ポイント** 直営でも扱える簡易診断により、外見に現れない空洞化を把握することが可能に。空洞化の早期発見につながり、被害拡大の防止に寄与。

# 04 ドローンを活用した枯損木調査

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

## 空から調査！画像分析による枯損木判定

所管： 国営武蔵丘陵森林公園

担当係： 国営武蔵丘陵森林公園出張所

### 1. 取組前の課題

#### ●病害虫による被害状況の把握不足

主要な病害虫（マツ枯れ、ナラ枯れ、クビアカツヤカミキリ）による被害が広範囲に園内で拡大しているが、全体の被害状況が把握できていなかった。計画的な予算要求や、作業量の把握、倒木等による来園者への被害防止ため、枯損木の位置・本数等の実態を把握する必要があった。

### 2. 取組内容

#### ●ドローンによる調査・分析

ドローンを用いて公園全域の枯損木調査を実施した。搭載したカメラによりRGB画像（標準のデジタルカメラの画像）及び近赤外マルチスペクトル画像（植物の活性と関連の強い近赤外域の反射率を含む画像）を取得した。近赤外マルチスペクトル画像を分析することにより、衰弱や枯死により変色した樹冠を際立たせ、非健全木の樹冠を半自動的に抽出する方法で判定した。



▲ ドローンによる空中撮影（R6.9）

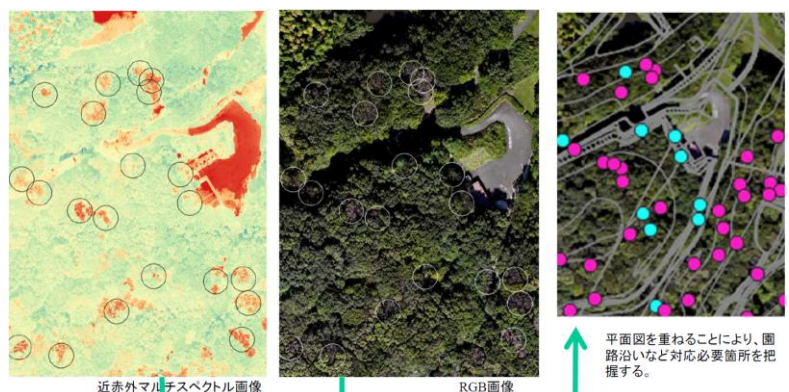
### 3. 効果

#### ●伐採木の抽出作業効率化に寄与

枯損木の位置情報を地図上で確認できるため、対象エリアを設定することにより、伐採対象木の抽出・現地での確認を効率的に行うことができた。

#### ●広域を一括で把握

ドローンにより広大な面積を一括で把握することができるため、調査の省力化ができた。



▲ 近赤外マルチスペクトル画像・RGB画像による非健全木の抽出

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ●調査時期の設定

当公園では特にナラ枯れの被害状況を把握するため、健全木との差が明確に捉えられる9月を調査時期に設定した。ナラ枯れ被害木は落葉樹であるため、ほとんどの落葉樹が落葉前で、かつ被害が顕著に出る9月が調査適期であった。調査目的に応じ、調査時期の設定に留意する必要がある。また、経過をとる場合も同様の条件を設定すると比較ができる。

#### ●データの活用

今後は、枯損木の把握だけでなく、過去の空撮写真との比較により林層・樹種の変化など遷移の状況の把握などにデータを活用したい。

**ポイント** ドローンの活用により、広域の樹林判定の省力化を実現。  
ドローンで撮影した画像分析の結果を、伐採対象木の抽出に活用。

## 05 樹木点検講習会の開催

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### 樹木の専門家を派遣します。現地での点検講習会

団体： 公益財団法人東京都公園協会  
担当係： 公園事業部 事業管理課

#### 1. 取組内容

##### ●出張で樹木点検の講習会を開催

自治体の職員向けに、公園協会の職員を派遣して樹木点検の講習会を開催している。講習会のコースは2つ設定しており、いずれも樹木点検の技量向上を目的としている。内容は座学講座に加えて、依頼のあった自治体の公園で現地研修を行うものとなっている。

##### ・コース1 樹木点検員養成研修（2日間）

- 1日目 午前：樹木点検の座学講習  
午後：樹木点検の現地研修（依頼された自治体の公園で実施）
- 2日目：樹木診断の現地研修（依頼された自治体の公園で実施）

##### ・コース2 はじめての樹木点検（1日間）

- 午前：樹木点検の座学講習
- 午後：樹木点検の現地研修  
（依頼された自治体の公園で実施）

#### 2. 効果

##### ●倒木による事故の未然防止

受講者の樹木点検の技術を向上させることにより、樹木の異常をいち早く察知することが可能となり、倒木による事故を未然に防ぐことにつながる。

#### 3. 工夫点、今後の取組 における留意点

##### ●継続的な技術力向上

限られた研修期間の受講だけでは、技術の定着や継承は難しい。そのため、各都県の樹木医会に依頼した定期的な研修や、指定管理者の勉強会等を通じて、継続的な技術力の向上に努める必要がある。

### あなたのまちの木をみてみよう！ 東京都公園協会の樹木点検講習

**□コース1 樹木点検員養成研修**

日程 2日間  
 催行人数 30名程度  
 実施場所 あなたの町の公園等  
 費用 35万円程度(応相談)  
 樹木の異常を察知する樹木点検員として樹木を点検するために必要な技量を2日間で身に着けます。

**□コース2 はじめての樹木点検**

日程 1日間  
 催行人数 30名程度  
 実施場所 あなたの町の公園等  
 費用 25万円程度(応相談)  
 巡回時や日常点検で注意すべき樹木事故の危険予知ポイントをコンパクトにお伝えします。

(※)上記以外についてもお気軽にご相談ください。

**□講習状況**

パワーポイントで座学    町の公園で解説    グループで樹木点検の実習    樹木診断を体験



※「樹木点検員」とは公園・街路等の樹木の健全育成や、倒伏や枯枝の落下などの防止による安全な利用の推進、地域の資産である巨樹・名木等の保全と活用など、樹木管理上、重要な役割を担う技術者で、東京都建設局公園緑地部長の認定を受けた、(公財)東京都公園協会独自の資格です。

樹木について全くわからない部分があったので、検診の入り口として貴重なアドバイスをいただきました

樹木医の仕事内容を初めて拝見することができ、なるほどと思う所がいっぱいあり感心するばかりでした

区民の安心・安全を確保するため、簡易的な樹木の点検を行い、維持していくことが大切と改めて思いました

コース1受講生の声

▲ 樹木点検講習会の案内

申込先：公益財団法人東京都公園協会 お問い合わせフォーム：[https://www.tokyo-park.or.jp/inquiry/form/form\\_park.html](https://www.tokyo-park.or.jp/inquiry/form/form_park.html)

**ポイント** 専門家による点検講習により、自治体職員の樹木点検に係る技術力向上に寄与。

## 06 地域の大学との協働

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### 大学の先生・学生を仲間に引き込む！ ～地元の大学と連携し、体制構築～

自治体： 千葉県

担当係： 公園緑地課 県立公園管理班

#### 1. 取組前の課題

##### ●老木による事故の危険性の深刻化

公園内の樹木は全体的に老朽化が進んでおり、倒木の危険がある樹木が増加していると考えられていた。そのため、専門家による調査と具体的な対策の検討が必要であった。

#### 2. 取組内容

##### ●大学との連携

柏の葉公園と、千葉大学 環境健康フィールド科学センターが隣接しているため、千葉大学が枯損木調査をはじめ、樹木マップの作成、相談員の派遣、講演会などの柏の葉公園指定管理の共同事業体の構成者として活動を実施している。調査は資格保有者である助教の指導の下、学生も加わっている。

#### 3. 効果

##### ●大学の専門性を生かした診断・事故の回避

大学の専門性を公園管理に活かし、伐採や観察の判断の知見・助言を得ることで、危険木による事故の回避につながっていると考えている。

##### ●相談先の確立

枯損木調査の他、樹名板の設置、樹木マップのWeb掲載・リーフレットの作成、イベント協力もいただいております。相談先ができたことがとても心強く感じています。また、大学側にも研究のフィールドとして公園を利用してもらっており、双方に利があると考えています。

#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●他の公園への展開

大学が隣接していることで協力を得やすい環境にあった。大学と公園の距離が近い場合は、他の公園で連携することが可能であると考えている。



▲ 体制図



▲ 大学と連携した樹木点検状況



▲ 千葉大学と柏の葉公園の位置関係

**ポイント** 公園管理者側は点検・調査等が強化され、大学側は研究のフィールドとして利用できる、双方にメリットがある関係を構築。

## 07 その他の事例（1/4）

### ① DXによるシステム構築

#### ●「クラウド型業務アプリ構築プラットフォーム」を活用した管理

<p>コスト削減・財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 群馬県館林市</p> <p>担当係： 緑のまち推進課</p>	<p>保安林を除く総合公園、近隣公園、街区公園、緑地等の樹木の現地調査を行い、樹種・越境の有無、また電線の掛かり等をチェックした。その後、公園樹木カルテとして「公園管理情報マネジメントシステム」を利用し、樹木台帳を作成した。</p> <p>検索が容易で、過去の事案等容易に調べられる。また、平面図上に施設や樹木位置を落とすことが出来るため、管理が容易である。</p> <p>関連資料：公園管理情報マネジメントシステム（POSAシステム） ： <a href="https://posasystem.com/">https://posasystem.com/</a></p>
---	--	--

#### ●LINE通報システムの導入

<p>コスト削減・財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 千葉県柏市</p> <p>担当係： 都市部 公園緑地課</p>	<p>「道路・公園損傷等のLINE通報」を導入し、市民から倒木・危険木の通報を受け取れるようにした。このシステムの導入により、市民からの即時通報による初期対応、危険と思われる場所への樹木医派遣、また、清掃時や草刈り時に樹木の様子を確認できるなど、迅速な危険木に対する処置が可能となった。</p>
<p>コスト削減・財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 埼玉県入間市</p> <p>担当係： 都市整備部 都市計画課</p>	<p>市民から公園に関する通報を受け取れるようにした。令和7年10月から運用を開始し、約6か月で9件の通報があった。</p> <p>通報者に通報箇所の写真を送信してもらうことで、職員が現地確認に行かなくても状況把握が適正に行え、伐採の必要性や緊急性の判断ができ、現地確認や電話対応にかかる時間削減された。</p>

#### ●GISによる樹木管理

<p>コスト削減・財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 東京都杉並区</p> <p>担当係： 都市整備部 みどり公園課 整備グループ</p>	<p>GISで樹木の位置をプロットし、樹種・規模・剪定記録・診断記録等を管理している。</p> <p>剪定の担当者が変わっても剪定履歴や診断記録を確認でき、引継ぎがスムーズに行えるようになった。特に樹木診断で経過観察になった樹木については、過去の診断記録を見つづ継続した管理ができるようになった。</p>
---	--	--

## 07 その他の事例（2/4）

### ② 地域との協働

#### ● キャンプ運営会社・シルバー人材で見回り

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 千葉県柏市</p> <p>担当係： 都市部 公園緑地課</p>	<p>手賀の丘公園では、民間会社によりキャンプサイト・BBQが運営されており、施設管理や清掃等の本来業務の傍らで行っていただくものとして、危険木の見回りを依頼している。また、清掃委託のシルバー人材にも協力いただき、高木の伐採は行わないなど危険が伴わない範囲での樹木の維持管理を依頼している。倒木に至る前の危険木の発見やマーキング、計画的な伐採、利用者への危険木近辺への立ち入り禁止処置徹底など、利用者の安全確保の一助となっている。</p>
--	---	---

### ③ 関係者への樹木点検の研修・講習

#### ● 樹木医による座学・野外での講習

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 千葉県船橋市</p> <p>担当係： 公園緑地課</p>	<p>樹木医に依頼し、樹木の維持管理をする市職員向けに年1回程度、座学研修及び実地研修を実施している。特に危険木に対する判定や緊急性について指導いただいている。</p> <p>これまでに、実施プログラムとして、樹木医が資料を作成し、午前に「安全な樹木管理について（座学）」、午後に「日常管理と日常点検について（実地講習）」が実施されている。</p>
<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 神奈川県横浜市</p> <p>担当係： みどり環境局 公園緑地維持課</p>	<p>樹木医を講師として招き、公園樹木点検の研修を実施している。座学での樹木点検関連の講義と、野外での樹木点検・樹木診断の視点に関する実習を行っている。対象は市の職員のみにとどまらず、指定管理者の職員も含めた。樹木点検の実施水準を引き上げることができていると考えている。</p>

## 07 その他の事例 (3/4)

### ④ マニュアル等の策定

#### ●「公園施設点検マニュアル」の作成

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 神奈川県横浜市</p> <p>担当係： みどり環境局 公園緑地維持課</p>	<p>「横浜市公園施設点検マニュアル」を作成しており、樹木を含めた公園施設の点検を年4回、定期的実施している。利用者に危険が及ばないように、枯れ木等の有無を確認、剪定や伐採等の必要な措置を対応している。また、老木や大木などについては、必要に応じて樹木医による診断も実施している。</p>
--	--	---

#### ●初心者でもわかるマニュアルの作成

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 東京都八丈町</p> <p>担当係： 建設課</p>	<p>東京都作成の公園点検マニュアルを基に、町独自のマニュアルを作成した。人員の入れ替わりが激しいため、内容は初心者でもわかるように作成した。マニュアルにより点検項目が規定されており、着目するポイントが示されているため、異なる点検者が見ても大きな差異が生じないなど良い点がある。</p>
--	------------------------------------	---

### ⑤ 仕様書等による規定

#### ●特記仕様書で具体的な評価基準を指定

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 埼玉県伊奈町</p> <p>担当係： 都市計画課</p>	<p>目視確認できない危険木を確認するため、都市公園の樹木の点検・診断に関する指針(案)【国土交通省】に基づき、伊奈町独自の仕様書を作成し、専門資格者（1級もしくは2級造園施工管理技士）による点検を実施するよう定めている。仕様書では、樹木の点検・診断に係る評価基準、調査対象公園の一覧、その他様式などが定められ、調査結果は、総合評価で報告することなどが定められている。</p>
--	--------------------------------------	--

#### ●他作業に合わせて危険木チェック

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 茨城県守谷市</p> <p>担当係： 管理課</p>	<p>危険木調査は業務項目として盛り込んでいないが、公園維持管理業者は作業で幾度も公園街路樹等の管理地を往来するため、その際に目視確認できるレベルの枯れや生活に支障をきたしている樹木を報告するように取り組んでいる。 報告形式はなるべく負担にならないように簡易な様式を作成し、様式に従い報告するよう請負業者に依頼している。</p>
--	------------------------------------	--

## 07 その他の事例（4/4）

### ⑥ 寄付金の活用

#### ● 寄付制度の活用

コスト削減・ 財源確保	自治体： 東京都狛江市	桜の保全活動が主旨である、民間飲料メーカーの寄付制度を活用した。 市内で桜の名所である「西河原公園」を選定し、寄付金を利用して園内の桜の樹木診断調査を実施した。 寄付金を活用することにより、比較的低予算で管理を実施することが可能となった。
システム構築	担当係： 環境部 環境政策課 水と緑の係	
新技術等活用		
技術向上		
外部連携		
		関連資料：キリン 晴れ風ACTION： <a href="https://harekaze.kirin.co.jp/sakura/">https://harekaze.kirin.co.jp/sakura/</a>

# 対策編

危険木への「未然防止」と「対処」に関する現場での工夫事例

# 01 地域協働で外来種対策

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

## 生態理解～薬剤での対策まで！外来カミキリ対策研修

自治体： 茨城県つくば市  
担当係： 建設部 公園・施設課

### 1. 取組前の課題

#### ●外来カミキリの被害増加

外来カミキリ（クビアカツヤカミキリやツヤハダゴマダラカミキリなど）の被害が公園・街路樹で増加し、つくば市の全庁的に対応する必要があった。

### 2. 取組内容

#### ●現場研修 生態理解～薬剤での対策

令和6年度に外来カミキリ対策研修として、つくば市の川口公園にて現場研修を実施した。外来カミキリの問題は公園だけでなく、外来樹でも生じており、全庁的な取組が求められた。

薬剤メーカーはつくば市の公園で治験をしていた経緯、また、つくば市の担当職員が樹木医の資格を有していたことから、樹木医会を中心に、森林総合研究所、薬剤メーカーを講師役に、市職員、造園協会、県生物多様センター等から幅広い受講者が参加した。

森林総合研究所加賀谷先生には、ツヤハダゴマダラカミキリ、クビアカツヤカミキリの生態をご教授いただいた。薬剤メーカーには「樹幹注入剤リパイブ」の実演をしていただいた。いばらき樹木医会には、茎崎六斗の森でのクビアカツヤカミキリの被害状況や、対策方法についての説明、網巻き防除方法を実演していただいた。

### 3. 効果

#### ●市内で情報共有

外来カミキリの生態、被害木の確認方法や樹幹注入、網巻き等の対応策について、全庁的に情報共有ができた。

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ●横断的な取組による新たな展開への期待

外来種対策に関して、分野間の垣根を越えた実践的な研修が実施された。継続的な実施及び知識や技術力の定着が望まれるところである。また、今回の取組に参加した分野間において連携を深め、その体制を生かし、今後新たな試みや取組につなげられる可能性がある。

研修内容

- ・ツヤハダゴマダラカミキリやクビアカツヤカミキリの生態や発生状況の見分け方について  
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 加賀谷 悦子 氏
- ・茎崎こもれび六斗の森でのクビアカツヤカミキリの被害状況や対策方法について  
日本樹木医会茨城県支部 支部長 古谷 孝行 氏
- ・被害木の対処方法や防除方法と実作業について  
シンジェンタ ジャパン株式会社  
(一社) いばらき樹木医会

タイムスケジュール

開催時間	科目	講師名	備考
13:00~13:30	受付 (川口公園駐車場)		
13:30~13:40	開会宣言 支部長挨拶・つくば市公園施設課挨拶	司会 研修委員	
13:40~14:10	ツヤハダゴマダラカミキリやクビアカツヤカミキリの生態や発生状況の見分け方について	加賀谷 悦子氏	30分
14:10~14:40	茎崎こもれび六斗の森でのクビアカツヤカミキリの被害状況や対策方法について	古谷 孝行 氏	20分
14:40~14:50	休憩、準備		10分
14:50~16:50	被害木の対処方法や防除方法と実作業について (樹幹注入剤リパイブの施用、スプレー注入、網巻き防除、被害木の剪定実演等)	シンジェンタジャパン株式会社 (一社) いばらき樹木医会	120分
16:50~	質疑応答、閉会の挨拶	司会 研修委員	

▲ 研修内容



▲ 薬剤メーカーの解説資料



▲ 外来カミキリ対策の研修状況

△ 多方面の関係者が一同に会し、各々の専門分野の知識を持ちより、実演を含めた本格的な研修を実施。公園事業に限らず、市の全庁的な情報共有も実現。

## 02 企業と協働する維持管理

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### SDGsパートナー制度による新たな連携の環

自治体： 群馬県前橋市  
担当係： 建設部公園管理事務所

#### 1. 取組前の課題

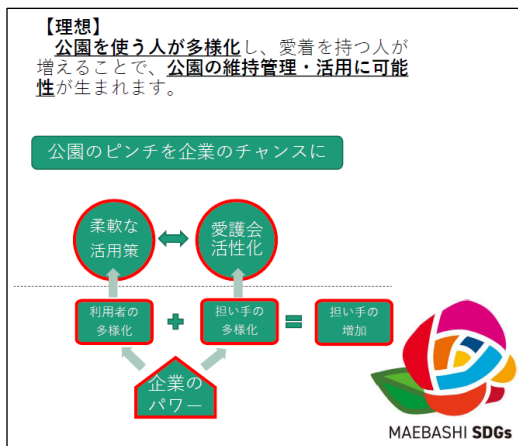
##### ●新たな担い手の必要性

公園愛護会の高齢化、活動意欲の低下が進んでおり、新たな担い手との連携が求められていた。

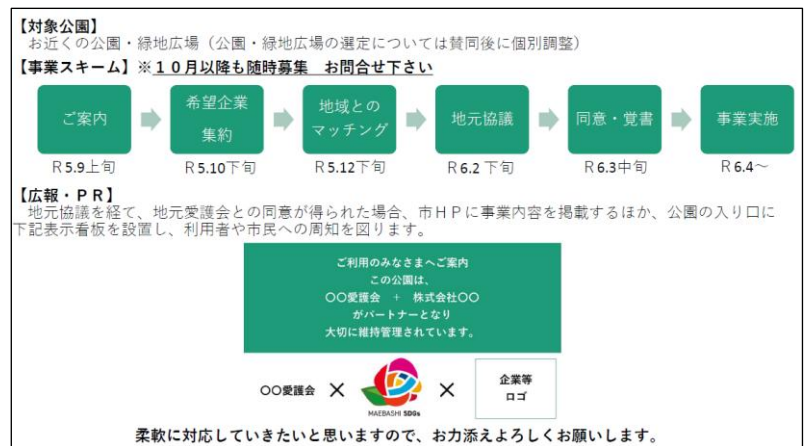
#### 2. 取組内容

##### ●企業・団体と公園のマッチング

公園に近く、地域貢献への意識が高い企業・団体と公園をマッチングさせ、企業や各種団体が公園の維持管理を手伝う仕組み「SDGsパートナー制度」を制定した。9公園において、企業や各種団体が新たな担い手として、愛護会・自治体と連携を行い、公園の維持管理へつなげた。



▲ SDGsパートナー制度の目標



▲ SDGsパートナー制度の募集案内

#### 3. 効果

##### ●愛護会・自治会との連携

植栽の維持管理や定期的な清掃への人力的な協力のほか、夏場など熱中症の危険がある期間には企業が除草を分担するなど、愛護会の負担軽減につながっている。

#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●樹木管理への展開

SDGsは世界の潮流であり、今後も、企業・団体のマッチングが拡大していくことが想定される。現時点では植栽の日常管理等が主であり、まだ樹木の安全管理に関する事例はないが、今後の人口減少により、益々公園の維持管理が難しくなることが懸念されることから、樹木管理にかかわるマッチングにより、連携の環が広がることが期待される。



▲ 企業や各種団体との連携状況

ポイント 企業のCSR活動と公園管理のマッチングにより、公園管理の新たな担い手を確保。高齢化するボランティア活動の負担軽減にも寄与。

## 03 造園協会と災害時協定

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### 緑のレスキュー隊！行政と地域の造園協会が結ぶ協定

自治体： 神奈川県厚木市

担当係： 都市みらい部 公園緑地課

#### 1. 取組前の課題

##### ●倒木による被害の増加

樹木に対する点検は、一般的に公園全体の施設点検と同時に終わって来たが、近年の強風時の倒木や、枯損による落枝により、市民への被害が多くなってきていた。

#### 2. 取組内容

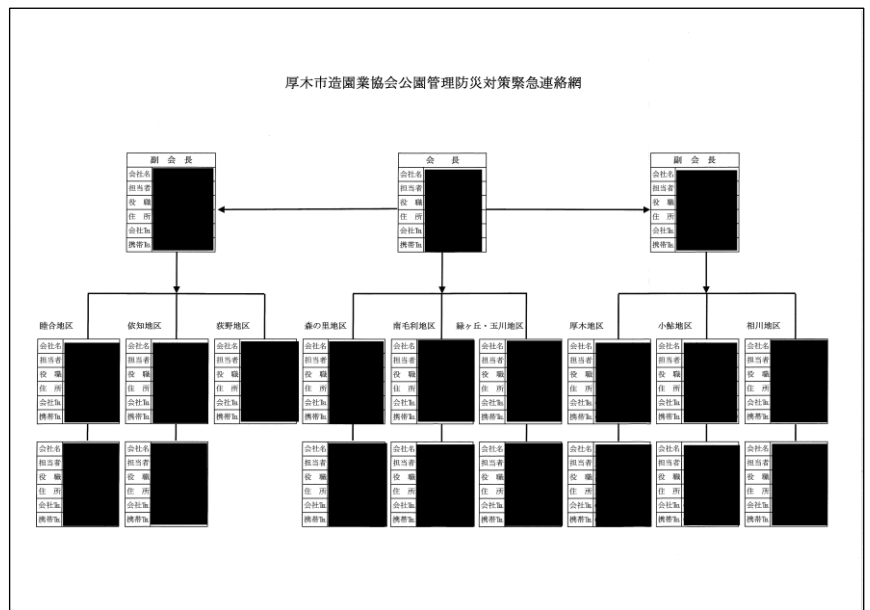
##### ●造園業協会との協定書

平成19年に市造園業協会と災害時における協定書を結んだ。災害発生時に市の要請により応急活動の協力を行ってもらうこととしている。

#### 3. 効果

##### ●迅速な安全確保

緊急時に協定を結んだ事業者に対応いただくことができ、迅速な安全確保が可能となった。実例として、令和7年度に緑地の倒木により道路が封鎖されたことがあったが、当日中に協定先に対応いただき、安全を確保することができた。



▲ 造園業協会との連絡体制表



▲ 倒木の処理状況の前後

#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●協定先の連絡先の更新

今後も緊急時に迅速な対応ができるよう、継続的に協定先の連絡網を更新を行う。

ポイント 事前の協定締結により、災害時の迅速な体制確保と安全措置対応が実現。

# 04 地域との協働作業

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

## 計画やルールに基づくボランティアによる樹林地管理

自治体： 神奈川県相模原市  
担当係： 水みどり環境課

### 1. 取組前の課題

#### ●広範な管理面積

近郊緑地特別保全地区である「木もれびの森」は、面積約73haの樹林地であり、  
 具有地の無償譲渡や土地所有者との契約により、9割を市が管理することとなっ  
 ていた。

#### ●高木化・老木化による事故の危険性の深刻化

植栽木が20年以上経過し、倒木・落枝の危険性が高まっている。

### 2. 取組内容

#### ●森づくりパートナーシップ事業

「木もれびの森」で森づくり活動を実践している4団体が市と「森づくりパートナース  
 ープ」という協定を締結した上で、ボランティアとして樹林地管理や保全活動を実施し  
 ている。

ボランティア団体の活動は市の「木もれびの森保全・活用計画」に位置づけており、  
 活動のルールブックに則って、伐採、切り出した樹木の処理等を行っている。

### 3. 効果

#### ●協定による伐採等の作業

ボランティア団体には、危険木の報告、さらに危険木が大きくない場合は伐採まで  
 対応してもらっている。

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ●日々の活動による効果

ボランティア団体の日々の活動により、危険木発見の向上や今後の方向性の意  
 見などを得られることが期待される。

#### ●高齢化による人手不足

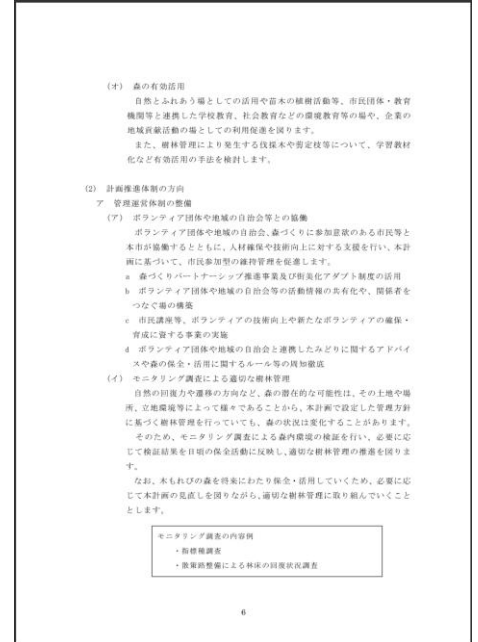
ボランティア団体等の高齢化により、今後活動する人材が不足する可能性がある  
 ため、担い手確保が課題。



▲ 間伐実施状況



▲ 風倒木の片付け状況



▲ 保全・活用計画  
(抜粋)



▲ ルールブック  
(抜粋)

**ポイント** 保全・活用計画やルールブックに基づく市民団体等の計画的な管理活動により、  
 良好な緑地空間を創出。

関連資料：相模原市：<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kurashi/1026489/kanky/1026506/plan/1008153.html>

## 05 その他の事例

### ① 事故の未然防止のための対策

#### ●エアレーション等による土壌改良

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 東京都練馬区</p> <p>担当係： スポーツ振興課</p>	<p>公園内環境における踏圧や、一定箇所の集中使用等により、樹木が劣化傾向にあった。そこで樹木の根を傷めない様に、土壌に穴を開け、酸素を送り込んで通気性を改善する作業（エアレーション）を行い、踏圧による固結の解消・土壌の排水性の保持に努めている。また、部分的な土壌改良として、有機肥料を用いて培養した客土の導入や、緩衝材としての地被類植栽などを行っている。</p>
--	--	--

#### ●専門ロープでの枝・幹の誘引、樹木の倒木予防、枝折れ時の落下予防

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 東京都練馬区</p> <p>担当係： スポーツ振興課</p>	<p>高木剪定時の対象樹木の劣化状況など、地上からの確認では難しい樹木の対策として、ポリプロピレン製の専門ロープを導入している。この対策では、高所作業においてもスチール製ワイヤーよりも軽く安全で耐久性のある素材であることから、枝・幹を誘引して、樹木の倒木予防、枝折れ時の落下予防などが可能になった。</p>
--	--	---

### ② 地域との協働作業

#### ●市民協働による実生木・危険木の間伐

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 茨城県守谷市</p> <p>担当係： 管理課</p>	<p>「公園等里親事業」により、みずき野地区「さくらの杜公園」と「郷州文化財公園」において、チェーンソー等を使用し市民と協働で、実生木や危険木の間伐した。協働での作業により、地域の課題を解決した達成感につながり、住民満足度向上にもつながった。</p>
		<p>関連資料：守谷市： <a href="https://www.city.moriya.ibaraki.jp/shisei/keikaku/1004473/1004487.html">https://www.city.moriya.ibaraki.jp/shisei/keikaku/1004473/1004487.html</a></p>

#### ●公園愛護会へ講習会実施・機械貸出の実施

<p>コスト削減・ 財源確保</p> <p>システム構築</p> <p>新技術等活用</p> <p>技術向上</p> <p>外部連携</p>	<p>自治体： 群馬県前橋市</p> <p>担当係： 建設部 公園管理事務所</p>	<p>公園愛護会へ向けて、現場作業員や市内の造園業による組合の方を講師とした剪定講習会を実施している。また、公園愛護会の負担軽減になるよう、乗用草刈り機等の機械の貸出しもしている。高齢化や人口減が進む中、機械の導入を促進し、負担軽減を図れるよう活用していただいている。また、講習会では、作業時の事故や怪我の危険の注意喚起を行っている。</p>
--	--	---



# 管理計画編

樹木の計画的な「安全対策」と「管理体制」の工夫事例

# 01 維持管理ガイドラインの作成

コスト削減・財源確保    システム構築    新技術等活用    技術向上    外部連携

## 樹木管理に係る実務者のためのガイドライン策定

自治体： 神奈川県厚木市  
担当係： 都市みらい部 公園緑地課

### 1. 取組前の課題

#### ●倒木による被害の増加

樹木に対する点検は、一般的に公園全体の施設点検と同時に行われてきたが、近年の強風時の倒木や、枯損による落枝により、市民への被害が多くなってきており、一元的な管理の必要性が生じていた。

### 2. 取組内容

#### ●職員のための維持管理ガイドラインの策定

令和7年3月に、管理の参考として「市・公園緑地樹木等維持管理ガイドライン」を策定した。ガイドラインは他自治体や文献を参考に日常点検等の結果に基づき、剪定・伐採等を計画的に実施していくためのフローを掲載している。樹木の配置基準についても定めており、樹木の密度・間隔の適正化を図っている。

#### ●樹木剪定・伐採エントリー表の作成

エクセルで巡視結果や住民要望を管理している。項目は公園名、樹木の状態、要望内容等を基本とし、ガイドラインを基準とした優先的に対処する危険木について記載する欄も設けている。人・財産への影響がある場合については、備考欄に記載して整理をしている。

### 3. 効果

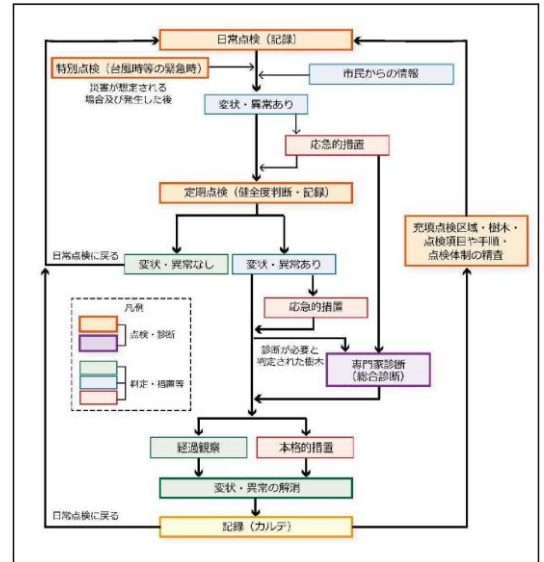
#### ●住民理解の獲得度の向上

樹木を伐採する際、住民に対して統一した説明が行えるようになり、理解を得やすくなった。

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

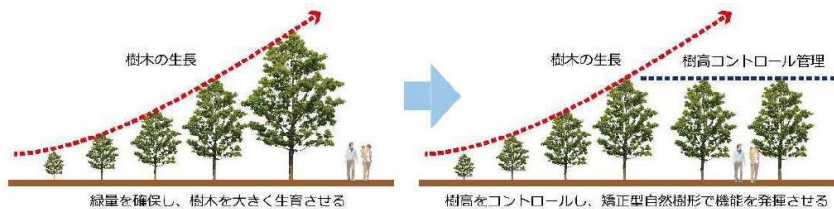
#### ●ガイドラインの定着及び技術力向上

樹木管理水準の確保に留まらず、ガイドラインの確実な定着、さらには実務者の技術力の向上につながることを期待される。

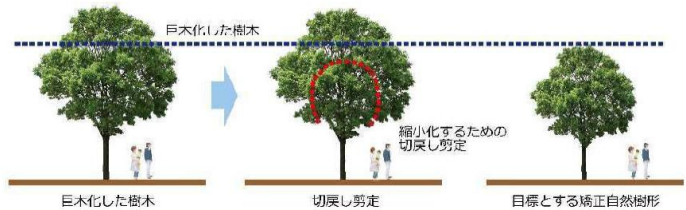


▲「市・公園緑地樹木等維持管理ガイドライン」点検・診断フロー

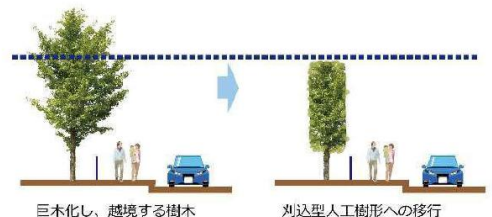
①：育成しながら目標樹形にする方法



②：巨木を剪定しながら目標樹形にする方法

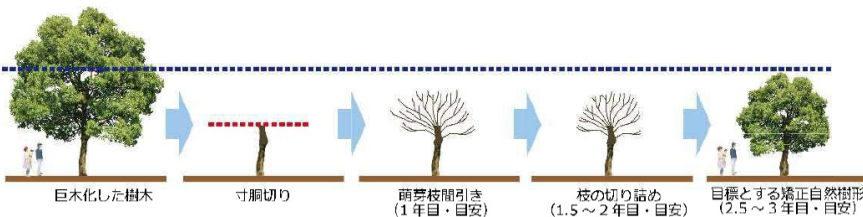


④：立地条件にあわせた目標樹形にする方法



▲「市・公園緑地樹木等維持管理ガイドライン」目標樹形の設定

③：樹木を仕立て直して目標樹形にする方法



ポイント    ガイドラインに基づき、適切な樹木管理水準の確保と統一した対外的説明が可能に。

## 02 パークマネジメント計画の策定

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### 植栽配置から管理・更新まで！

### 明確な樹木管理方針の設定

自治体： 東京都多摩市

担当係： 環境部 公園緑地課

#### 1. 取組前の課題

##### ●老木化の進行

市内の公園内樹木は植樹から40～50年が経過しており、市民の安全性を確保することがさらに重要になってきた。

##### ●不明確な樹木管理基準

これまで樹木管理について明確な基準がなかったことから、担当者の方針にばらつきがあった。

#### 2. 取組内容

##### ●樹木管理の方針を明記

令和5年度に策定した「多摩市パークマネジメント計画」の中で、樹木の管理方針を示した。樹高・樹形等の管理をはじめとし、再植栽する際の樹種選定、公園樹木の配置における方針を記している。

##### ●「モデル区域」での試験施工

令和6年度より始めた市内の緑地の中で「モデル区域」を選定し、樹木医による意見も踏まえながら萌芽更新・伐採等の試験施工を実施して樹木の若返りを図っている。

#### 3. 効果

##### ●業務の標準化

樹木維持管理における業務の標準化が図られ、職員が交代しても効率的な維持管理が実施可能である。

##### ●明るい林床環境の創出

各モデル区域において、約500～1,000m<sup>2</sup>分の樹林地の更新（伐採・間引き等）を行い、一部明るい林床環境を創出することができた。

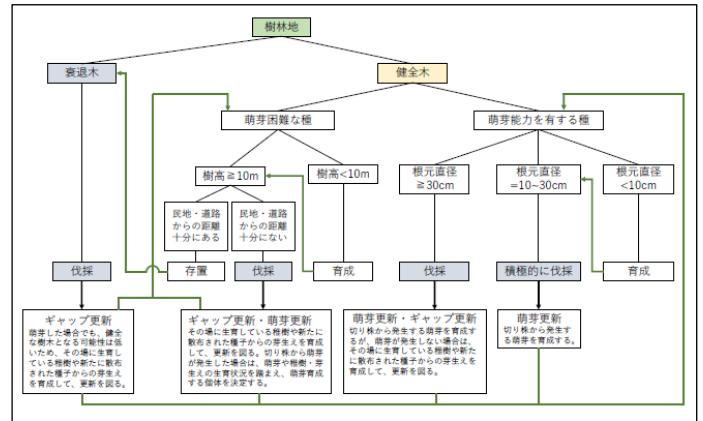
#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●多様な効果の期待

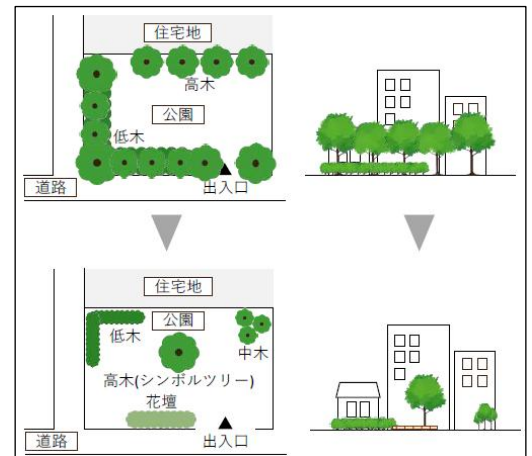
倒木等の危険だけでなく、明るい環境の整備により不法投棄の防止や防犯効果も期待できる。

##### ●公園・緑地状況に合わせた対応

樹木が生育している土地の特性や環境によって、必ずしもこの管理方針に沿った対応を行うべきではない場面もあり、公園・緑地状況に合わせた対応が求められる。



▲「多摩市パークマネジメント計画」緑地内樹木管理の方針



▲「多摩市パークマネジメント計画」公園内樹木配置の方針



▲ モデル区域における林床環境の変化

**ポイント** 樹木の管理水準を設定することで、職員の異動等による方針のブレを解消。設定した「モデル区域」では良好な林床環境を創出。

## 03 住宅等緩衝区域の設定

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

### 住宅街にさらなる安心を。「バッファゾーン」の設定

自治体： 神奈川県相模原市

担当係： 水みどり環境課

#### 1. 取組前の課題

##### ●生活被害の発生

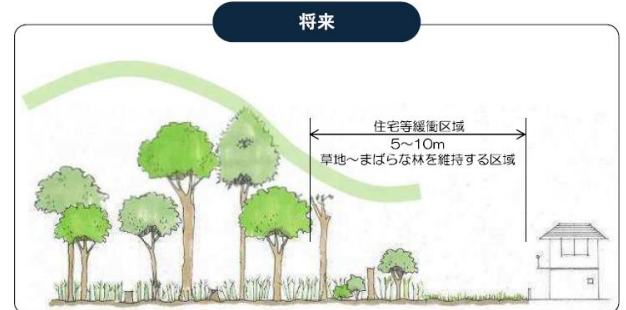
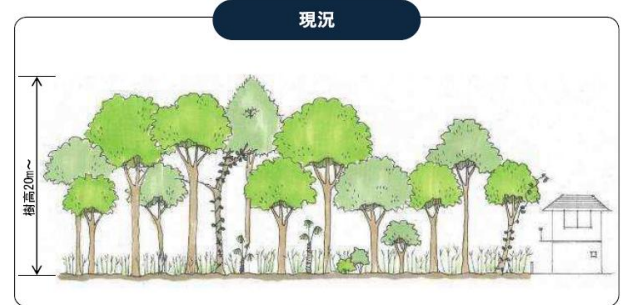
住宅や道路沿いなどの林縁部において、倒木事故のリスクの他、越境や日照阻害等の生活被害が生じていた。

#### 2. 取組内容

##### ●住宅等緩衝区域の設定

「木もれびの森保全・活用計画、整備・管理計画」において、住宅等緩衝区域（バッファゾーン）を設定している。緩衝区域の幅は原則10m（生活道路沿いは5m）とし、状況に応じて基準幅を超えて設定することも可能としている。緩衝区域内の詳細は以下のとおりである。

- ・住宅等より0～5m幅：高木は全て伐採し、草地・低木を中心とする。
- ・住宅等より5～10m幅：高木は伐採及び樹幹伐採など、高さや密度を低くする。



▲ 住宅等緩衝区域の管理目標

#### 3. 効果

##### ●市民からの苦情の減少

倒木事故の防止に加え、発生していた生活被害も軽減したことにより、市民からの苦情が減少したと考えられる。

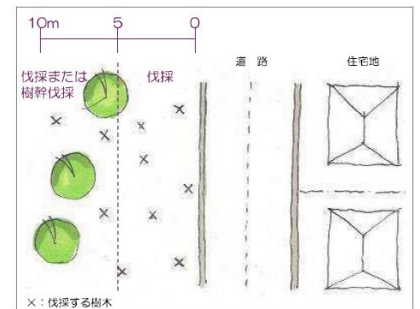
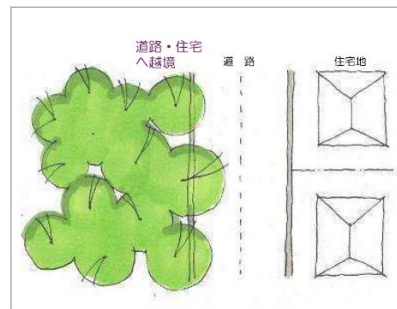
#### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

##### ●除草対応の考慮

住宅等緩衝区域は草地又は低木での管理となるため、除草による定期的な管理が必要となる。除草面積が増え、日当たりが良くなることで草丈が高くなることから、適宜除草対応が必要となってくることも考慮し、事後的な対応とならないような適切な管理が求められる。

##### ●地域の理解

住民からは、住宅に近い樹木は防風林としての役割を果たしているので伐採しないでほしいという意見が挙がることもあり、個々の緑地の状況、住民意見を考慮する必要がある。



緩衝区域を整備した国道16号沿い



緩衝区域を整備した住宅沿い

▲ 緩衝区域の整備イメージ



住宅等隣接地の危険木を計画的に除去し、越境・日照阻害の生活被害も軽減。市民からの苦情も減少。

# 04 ボランティアが参画した「公園管理計画」の策定

コスト削減・  
財源確保

システム  
構築

新技術等  
活用

技術  
向上

外部  
連携

## 市民が主役の公園づくり – 市民参加の法定協議会 –

自治体： 茨城県古河市

担当係： 都市計画課

### 1. 取組前の課題

#### ● 景観の悪化

市民の声を取り入れた管理がされずに「ふるさと」の風景・景観からかけ離れていた。

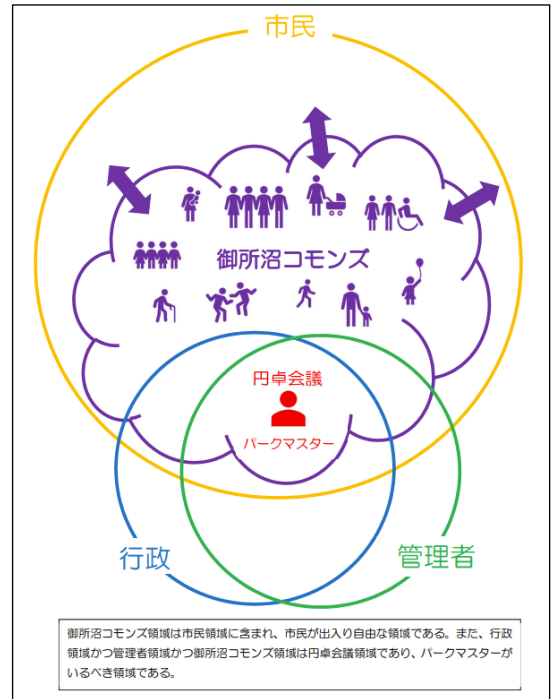
### 2. 取組内容

#### ● ボランティア団体を含めた円卓会議

「古河公方公園（古河総合公園）」において、公園づくりの基本構想を策定している。その中で、公園管理運営の専門家としてのパークマスター※を配置し、行政・管理者・ボランティア団体による円卓会議を3か月に1回開催している。会議では樹木の伐採・植樹等を議題としており、積極的な意見を頂いている。

※パークマスター制度：

「博物館の学芸員のように公園の活用を工夫し、市民の公園への想いを支援して、人々の出会いを促す役を担う」ものとして着想した制度。  
パークマスターは、「公園の魅力を最大限に引き出し、市民と公園をつなぐ職能」と仮定義されており、古河市の公園において豊かな市民生活を実現するために配置された。



▲ 円卓会議の構成

### 3. 効果

#### ● 良好な景観形成

長期的な管理・利用等の計画を策定し、市民が馴染んだ自然環境に配慮した管理運営により良好な景観形成につながった。



▲ 円卓会議の開催状況①



▲ 円卓会議の開催状況②

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ● 市民の満足度の向上

市民が参画することで、公園に対する要望を把握しやすくなり、一層の満足度の向上が見込める。

#### ● 長期的な更新

植栽計画も策定中であるが、特に高木については計画策定に長期的な時間を要してしまうことが課題である。

**ポイント** パークマスターが公園管理者とボランティアや市民をつなぐ橋渡し役となり、将来の公園の管理・利用に関する合意形成に貢献。

# 05 「保全管理計画」を基に ボランティアと連携での公園管理

- コスト削減・財源確保
- システム構築
- 新技術等活用
- 技術向上
- 外部連携

## 全員が主役！ 官民連携での「保全管理計画」の策定と実務

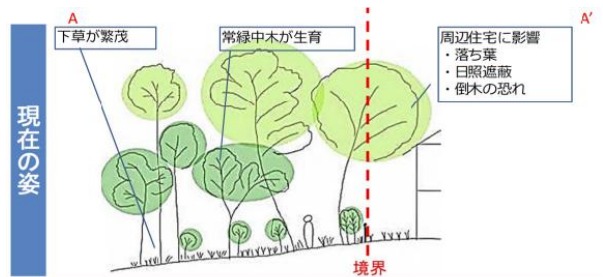
自治体： 神奈川県横浜市  
 担当係： 横浜市みどり環境局 公園緑地維持課

### 1. 取組前の課題

#### ●各方面への配慮

市内には、市民の森※などの多くの樹林地が保全されており、これらを良好に管理するためには、安全管理だけでなく、人間の活動・利用状況、生息する動植物の情報、土地の歴史・成り立ちなどにも配慮する必要があった。

※市民の森：都市公園法に基づき設置された都市公園とは異なり、民有地を中心とした緑地を保存するために設けられた横浜市独自の制度



### 2. 取組内容

#### ●官民連携での「保全管理計画」

市民ボランティアや行政などの関係者が連携し、対象とする樹林地ごとに目標とする姿（植生）や作業内容、役割分担などを定めた「保全管理計画」を策定し、これに基づき管理を行っている。

- 実施事項
- ①下草刈りを実施する
  - ②常緑樹（中高木）を伐採する
  - ③不良木伐採・不良枝剪定を行う

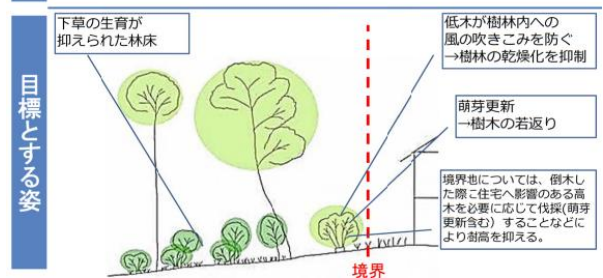
### 3. 効果

#### ●協働体制の整備

行政と市民が共通の目標を持って協働できる体制が整備された。

#### ●安全性の向上

計画的な樹林地管理により安全性の向上が見込まれている。



▲「中田ふれあいの樹林 保全管理計画」での目標

### 4. 工夫点、今後の取組における留意点

#### ●ボランティアの活動意欲維持

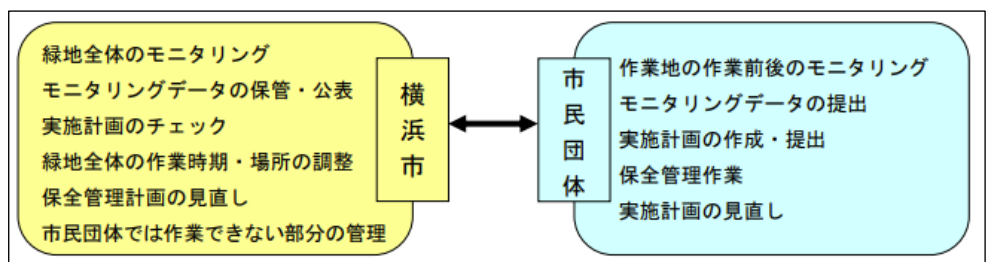
ボランティア自身が参画し、目標・役割を設定することで、活動意欲の維持・向上が見込める。

#### ●長期的なコスト

保全管理計画の策定や実施には、調査・検討・見直しなどに費用や労力が必要なほか、市民協働では活動の調整などに時間もかかるため、策定された樹林地は未だ限られている。



▲ 管理の実施状況



▲ 保全管理計画での役割分担

**ポイント** 行政と市民ボランティア共通の管理目標を設定した上で樹林地を協働管理。計画的な管理作業を役割分担して進めることで適切な管理を実現。

## 06 その他の事例 (1/2)

### ① マニュアル等の策定

#### ●標準公園モデルの作成

コスト削減・ 財源確保 <b>システム構築</b> 新技術等活用 技術向上 外部連携	自治体： 群馬県館林市 担当係： 緑のまち推進課	樹木が年数と共に巨木化し、倒木や落下枝の苦情・要望等が多く発生していたため、管理の参考として公園樹木の取扱い方針のなかで、「標準公園モデル」を策定した。街区公園、近隣公園、総合公園ごとに樹木の基本的な植栽方法及び樹木の外周植栽の基準等が定められ管理が進められている。取組の効果として、基準等にそった管理により近年の市民からの公園内樹木の剪定要望の減少傾向などがみられた。
---	-----------------------------	---

#### ●計画的な維持管理のためのマニュアル策定

コスト削減・ 財源確保 <b>システム構築</b> 新技術等活用 技術向上 外部連携	自治体： 千葉県船橋市 担当係： 公園緑地課	樹木の管理手法や取組項目を整理するとともに、管理の参考として計画的な維持管理のためのマニュアルを策定した。「これまでの取組みと課題」や「管理手順」、「病虫害や特に注意すべき樹種」等を記載している。公園内の樹木管理を行う上での指針として、各担当が業務を実施する上で参考とし、実務に活用できている。
---	---------------------------	---

### ② 高木・大木の植栽配置・樹種選定の検討

#### ●公園面積に応じた植栽樹種の選定

コスト削減・ 財源確保 <b>システム構築</b> 新技術等活用 技術向上 外部連携	自治体： 東京都杉並区 担当係： 都市整備部 みどり公園課 整備グループ	30～40年以上前に開園した公園は、園内にケヤキなどの大木になる樹木が多く植栽されている。現在では近隣からの日照や落ち葉に関する改善要望が寄せられるほか、剪定費用がかかり維持管理が難しくなっていた。これを踏まえ新規公園を整備するにあたり、公園の面積に応じた植栽樹種を選定している。小規模の公園には、大木化・成長が早い樹木は選定しない、または過密植栽にならないように設計している。
---	---	---

#### ●高木の植栽配置・樹種選定の検討

コスト削減・ 財源確保 <b>システム構築</b> 新技術等活用 技術向上 外部連携	自治体： 栃木県宇都宮市 担当係： 公園管理課	高木の植栽配置の検討では、公園外周部を避けるなど倒木時の影響範囲の最小化に留意している。また、腐朽病害の罹病確率が高く、外部からの診断が困難な傾向にある樹種（ヤナギ、ユリノキ、ポプラ等）は避けるなど、倒木リスクの低減に向けた樹種を選定している。
---	----------------------------	--

## 06 その他の事例（2/2）

### ③ 伐採計画の優先順位の整理

#### ● 危険木の優先順位の設定

- コスト削減・財源確保
- システム構築**
- 新技術等活用
- 技術向上
- 外部連携

自治体： 栃木県宇都宮市  
 担当係： 公園管理課

伐採対象となりうる危険木の数が膨大であり、的確な優先順位を踏まえた計画的な対応が必要な背景があった。そこで、対象樹木の生育状況により健全度を3段階にランク分けし、危険木伐採の優先順位を決定している。また、公園の立地特性（指定避難場所の有無、住宅、主要道路、軌道など）を踏まえるなどの総合的な判断により、公園ごと及び公園内樹木の危険木の優先度を整理している。



## マニュアル・ガイドラインを公表している自治体

01

自治体名:東京都足立区 所属課:都市建設部 東部／西部道路公園維持課

### 公園樹木維持管理指針



点検



対策



管理計画

目指す公園の緑とその実現に向けた取り組みの方向性を示した「取り組み方針編」、植栽の基本的配置、樹木等の維持管理に関する具体的な手法を示した「実務編」で構成される。

「取り組み方針編」では、公園の緑の現状と課題、樹木管理の課題等を踏まえた改訂指針、目標、方向性。「実務編」では、植栽の配置、樹木の維持管理、区民との共創・関連部署との連携について方針等が示されている。

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/68720/koenjyumoku-honpen20241129.pdf>

02

自治体名:東京都小金井市 所属課:環境部 環境政策課

### 小金井市立公園等の樹木管理ガイドライン



点検



対策



管理計画

目標に向けた公園の種別の管理計画や管理方法を定めるための指針として活用することを目的としたガイドライン。樹木管理の基本方針（適正な管理、公園等の種別毎の樹木管理目標）、樹木の具体的な管理方法（点検内容、剪定）について示されている。

<https://www.city.koganei.lg.jp/kurashi/479/keikakuhousin/jyumokuguide.files/jyumokuguide.pdf>

03

自治体名:埼玉県川口市 所属課:建設部 公園課

### 川口市樹木管理指針【公共施設編】



点検



対策



管理計画

施設や樹木の状況に応じた管理のあり方をまとめることを目的とした指針。公共施設の樹木管理の現況と、課題を利用面、地域共存面、生育面から示されている。具体的な管理の方向性や目標は図示され、わかりやすく整理されている。樹木管理の共通事項として、剪定の方法、点検・診断・樹勢回復、植栽基盤の充実、植替え・樹種転換、市民との協働等の方法が示されている。

<https://www.city.kawaguchi.lg.jp/material/files/group/121/koukyousisetuhen.pdf>

04

自治体名:埼玉県東松山市 所属課:都市計画部 都市計画課

### 東松山市都市公園内樹林地等管理指針



点検



対策



管理計画

都市公園内の樹木や樹林地を保全し次世代へ引き継いでいくための管理の方向性が示されている。管理計画の設定（樹林地の把握と評価、目標の決定、管理手法の決定）及び、樹林地管理作業（間伐、除伐、枝打、下草刈り、つる切り、病虫害防除、補植）の方法が示されている。

<https://www.city.higashimatsuyama.lg.jp/uploaded/attachment/5053.pdf>



## マニュアル・ガイドラインを公表している自治体

05

自治体名:神奈川県相模原市 所属課:環境部 公園課

## 市公園樹木等維持管理計画



点検



対策



管理計画

公園の樹木の巨木化や老木化が進む中、樹木の持つ機能や役割を發揮させ、安全・安心で快適な空間として公園を維持することを目的としている。樹木の維持管理の方針を「生長優先」から樹木のもつ機能や役割を最大限發揮する「樹木等のストックマネジメント優先」へと変換するとしている。具体的な公園等における樹木の適正な配置、各課題に対するリスクの見極め方、点検方法等も詳細に示されている。

[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/res/projects/default\\_project/page/001/017/040/01.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/res/projects/default_project/page/001/017/040/01.pdf)

06

自治体名:千葉県柏市 所属課:都市部 公園緑地課

## 公園内高木の管理指針



点検



対策



管理計画

大きく生育したことで問題が発生している高木の管理について、将来に問題を先送りしない管理方針を定めることを目的としている。指針では、近年一律3年間隔で実施されていた剪定作業（3年先まで越境等が発生しないような強剪定。自然樹形を損ね生育不良・病害等の一因となる）を見直すことを提案している。伐採を行う場合は、防犯・安全対策、周辺の住環境対策、電線類対策等ケース毎に方法が示されている。

<https://www.city.kashiwa.lg.jp/documents/4587/01.pdf>



